

第2 検討部会 会議録

会議の名称	第2回 第2 検討部会
開催日時	平成19年8月9日(木)18時30分から20時30分
開催場所	川口市職員会館 2階 講座室A
出席者	(部会長)平副委員長 (委員)小川委員、永瀬委員、大関委員、立石委員、石井(邦)委員、河合委員、篠田委員、高橋委員、吉田委員
会議内容	・自治基本条例の策定に際しての部会長の考え ・自治基本条例に対する各委員の期待 ・今後検討をおこなうテーマ
会議資料	・川口市自治基本条例の策定に際して ・川口市自治基本条例に期待すること
発言内容	<p>川口市自治基本条例の策定に際しての部会長の考え</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自治の対象 <ul style="list-style-type: none"> ・川口のまちをつくること ・川口のまちを運営すること 2. 自治基本条例の性格と範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の憲法という位置づけだけで良いのか？ ・実質的な「動き」を生み出せないか？ まちづくり活動、協働事業 ・どのようなまちを目指すのか？ 3. 市民と行政・議会との関係の見直し <ol style="list-style-type: none"> (1) 信託 <ul style="list-style-type: none"> ・市民は行政と議会に何を託すのか？ ・行政・議会は市民のニーズをどのように把握、分析するのか？ (2) 協働 <ul style="list-style-type: none"> ・原則 目的共有、相互理解・尊重、対等 ・行政・議会の反省が前提 ・いかに対等の関係を構築、維持するか？ ・協働の範囲 (3) 参加・意思決定のルールづくり <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの検討段階に市民はどのように参加するのか？ ・参加する市民の代表性をどのように担保するのか？ ・委員会や審議会の答申を行政や議会が修正する適正な手続きとは？ (4) 開かれた行政・議会 <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開 ・政策立案、決定、実施、評価の段階への市民の開かれた参加 4. 新しい公共 <ul style="list-style-type: none"> ・補完性の原理

- ・公共性のゆらぎ
 - 主体の公共性のゆらぎ
 - 公共と非公共の境がはっきりしなくなっている
 - 内容の公共性のゆらぎ
 - 道路を作るのが公共か、緑を守るのが公共か？
 - 市全体を優先するのか、地区を優先するのか？
 - 手法の公共性のゆらぎ
 - 法定から合意形成へ
 - 手続きの公共性のゆらぎ
 - どうやって決めるが公共的か？
 - 時間の公共性のゆらぎ
 - 時代状況が変われば、公共的であったものも公共的でなくなる

5．行政改革

- ・公共サービスの独占 競争相手の出現
- ・市民感覚の醸成と維持
- ・行政の限界の見極めと、市民への説明
- ・行政の業務は多すぎるのではないか？

6．議会の機能・可視性の向上

- ・議会は機能しているのか？
- ・市民は議員の議会活動をきちんと評価できるようになっているのか？
- ・議員の条例制定能力は？そのためのスタッフは十分か？
- ・議会事務局は一般行政職から切り離す必要があるのではないか？
- ・協働社会における議員の役割は？

7．市民の範囲・分類・区別

- ・すべての市民を平等に扱うべきか？
- ・市民の種類によって権利と責務は異なるのか？

部会長の考えに対する質疑応答・意見交換

- ・他の自治基本条例をみると、市民の権利・義務について記載されている事例が多いが、この検討会では市民の権利・義務について検討する場はあるか。

市民の権利・義務についても委員の要望によっては検討対象となる。
 今回部会長が述べた内容についても全て検討する必要はなく、これからの話し合いで何を検討していくか整理していきたい。

- ・部会長の話では策定にあたっての問題点が述べられたと思うが、特に参加する市民の代表性をどのように担保するのかについて興味を持っている。委員以外の市民の声をどう集めるか今後考えていきたいが、この点について意見を伺いたい。

こまめに検討部会における会議内容について公開するほか、ある程度

形が見えてきた段階でメールなどによる意見応募などが考えられる。委員会自体を知らない人も多い。そのため、他の市民に対して自治基本条例についてどのように知ってもらうか、また自治基本条例に対する他の市民の意見をどう拾い上げるかについて、この部会に限らず委員会全体として対応していきたい。

周辺に自治基本条例のことを話しても、認知度が低く、他の市民の声を拾い上げることも委員の責務の一つだと考えている。

この部会を希望したのは、この部会の紹介にあった協働というテーマに関心があり、市民と行政との協働の機会をいかに増やしていくのかを考えていきたい。

協働というテーマに照らし、まずは自治基本条例において、どのように市民が関わっていくのか検討していきたい。

社会福祉協議会では、地域ごとに異なる問題、特性について声を聞く機会を設けているが、この委員会でも公民館単位などで広く意見を聞く場を設けるのはどうだろうか。私も自分の意見だけでなく、他の市民の意見を反映することも委員の責務だと考えている。

第2回検討部会のテーマである「市民との協働の観点から考える自治基本条例」をどう捉えるべきか考える必要がある。例えば防災時の町会と市役所との協働のようなものが考えられるが、他の団体による様々な形態の協働も考えられることから、各種団体の声も聞きたい。

委員が自治基本条例に期待すること

- ・自治基本条例には次のような街になるための分かりやすい目標、またそれを可能とする中長期的スケジュールとなることを期待している。希望の川口市の姿は、市民が安心・安全な環境の中、生き活きと生活できることで長く住み続けたいような、今後人口が増えていく街である。自治基本条例には、普遍性と共に川口らしさを備えて欲しい。
また、教育と連携して持続的な自治基本条例の学習体制やまちづくりの人材育成制度が望まれる。個人がまちづくりの単位になることは困難であることから、個人の集まりが協働組織として、地域に参加しやすい仕組みを条例の中に表現したのだろうか。そういった協働組織には行政組織の下請けでない独立性が求められ、具体的には町内会やNPOなどが考えられるが、将来的には「まちづくりNPO」といった組織が主体となるかも知れない。そのほか、紛争が発生した場合の自主解決を目的とした第三者機関の設置、まちづくり活動を活性化する定例イベントの立ち上げ、災害時の協働活動体制があるといい。
- ・町の連帯感が不足してきているように感じるが、安心・安全な社会は住民の求める最も基本的なことだと思う。また、川口らしさも自治基本条例に必要だと思う。

- ・学生の立場からすると、自治基本条例に分かりやすい目標が設けられるといいと思う。周辺の人に自治基本条例について話しても認知度が低いことから、現状では地域における協働には困難が生じるとされる。そのため、今後分かりやすい運営のもとで、他の市民からの意見を取り入れながら、自治基本条例の策定が行われて欲しい。策定委員会の活動内容をインターネット上の公開に限定してしまうと、市民の目に触れる機会が狭められるため、例えば西口公園などでイベントをおこなってみると少しでも認知度が高まるのではないか。
- ・条例の策定に市民が身近に関われる場であることに関心を持って応募した。何らかのかたちで社会貢献を行っていきたいと考えており、このような現場活動での経験を通じて、市や条例について学んでいきたい。行政、議員の人も同じ市民であると捉えた上で、各市民が協力して自治基本条例を策定していきたい。この場にはいない市民は多く、参加していない市民の共感を得られるような自治基本条例にしていきたい。
- ・これまで、PTA など様々なかたちで人と関わる場所に参加してきたが、最近、地域における思いやりが足りないように思う。これは全国的なことかもしれないが、不安を覚えることがある。学校、家庭、地域からなる「三位一体」といった言葉を学校の場で聞くが、その考え方は地域社会でも同様だと感じる。
 どんなに内容のしっかりした自治基本条例を作っても、それを理解する人がいないと不十分だと思う。そのためにも分かりやすい、具体的なものを作り上げていきたいと思う。私の世代層である主婦は自分の生活で精一杯で、難しいことを聞く余裕のある人は少ないと思うが、そういった人達の賛同を得ながら作れたらと思う。
- ・専門家なら条例の策定は簡単なのかもしれないが、市民が自治について考え、これから街をどう良くするのか取り組む過程こそが自治基本条例にとって大事だと思っている。組織の力も重要だが、まず組織の前に個人という単位も大事だと思う。1人1人が自治を考える機会であって欲しいが、考えるだけでなく行動をおこす市民が必要であり、そういった人を育てる下地づくりも重要である。全市民が自分のできる範囲で協働に参加すれば、街づくりにおいて非常に大きな力となるのではないか。
- ・市会議員の立場からすれば、議会をもっと理解して欲しいと感じている。市民との協働について議会の果たすべき役割が大きいと思っており、個人としては色々やっているが、議会で議論していることをもっと市民に知ってもらう必要を感じている。議会についても時代によって求められるものは異なるため、時代にあった議会運営の必要性を感じているほか、現場を重視した議会として、机上の審議だけでなく現場にいったみる意識を働きかけたい。協働という観点から、議員は市民とどう関わっていくのか考える必要がある。以前は国に決められた事務を自治体がおこな

うのが一般的であり、議会の役割が小さかったが、地方分権の進展により、当時と今の議員では意識が相当異なっていると思う。

市民といっても地域、企業、世代など色々なものが含まれると思うが、それらの長所・短所をいかに上手く組み合わせるかが、協働のかたちを考える上で重要ではないか。川口市は埼玉県内でも外国人の多い地域であり、彼らの存在を無視することはできない。

最終的に素晴らしい自治基本条例ができ、この条例に魅力をもって住んでくれるような地域にしていきたい。

- ・議員になって様々な課題があることを感じている。自治基本条例の策定では市民意識を高めるとともに、市民の声を反映させることは難しいことだと思うが、非常に大事なことだと思っている。
- ・地域に望まれるのは安心、安全、連帯感だと思っているが、個人情報保護法が一人歩きしてしまい、それらの障害になっているのが現状であるため、その点を自治基本条例に取り込んでもらいたい。個人的な意見だが、ずるい人が得をするような社会傾向が改善されることを望みたい。このほかにも地域の幅広い声を聞いていきたい。
- ・防犯等、様々なボランティアをおこなっているが、緊急災害時のろうあ者への連絡体制等やバリアフリー、託児所の不足など不安に持つことが多く、住み良いまちづくりとはどのようなものか協働の観点から考えていきたい。市民1人1人の意見が反映される委員会となることを期待している。
- ・以前は街づくりや議員活動に興味なかったが、大学で街づくりに関心を持っている同世代の人と会ってから、川口市のことに関心を持ち始めるようになり、不満を感じるようになった。都市計画の面では、大型ショッピングセンターや高層マンションの建設によって鋳物工場も消えていくことで、かつての川口市の面影が変わることにさびしい思いをしている。
この部会を通じて人生の先輩の意見を聞き、色々学んでいきたい。
- ・議会の在り方を変えていく必要がある。例えば6月に市民の声を聞く場を設けたり、質疑応答時の1問1答形式、対面式の議会などをおこなうのも良い考えだと思う。
- ・必要であれば、市と連携している団体から協働をテーマとして情報提供を受けてみるのもどうだろうか。
- ・1人1人が協働について、異なるイメージを持っていることから、具体的に誰が、どういったことを行うのかについて考えていくべきだと思う。
- ・納税等の義務的な面も含めて、既存の考えにこだわらず、協働とは何か広い観点から考えていきたい。
- ・川口市には33もの公民館があるので、公民館を利用して市民の声を聞くことも考えられる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市の専門セクションを呼んで意見を聞いた上で、協働とはどういうものなのか議論を深めていくのも一つの考えではないか。 <p>次回の議論について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、行政が市民団体、町会等と取り組んでいる市内の協働事例を見て、協働についてどう考えるか検討する。
次回以降日程	<p>第3回検討部会 8月21日(火) 18時30分～職員会館2階 講座室A</p> <p>第4回検討部会 9月4日(火) 18時00分～職員会館2階 講座室A</p> <p>第5回検討部会 9月28日(金) 18時30分～職員会館2階 教養室AB</p>